羽村市民一人ひとりの生涯学習を支援する情報誌

ゆとろぎ通信 Vol.5

2009年6月1日発行
通巻13号

■発行：羽村市教育委員会　■企画・編集：羽村市生涯学習センターゆとろぎ／ゆとろぎ協働事業運営市民の会

今号のコンテンツ

p.2 ■新講座紹介
「世界の“今”を知る」
第2回　写真展と講演会
中国雲南省の少数民族
ー学校建設支援活動の現場から
p.3 ■コンサート情報
羽村ゆかりの音楽家たち
はむらの風コンサート
フレッシュ名曲コンサート
親子のためのクラシックコンサート
音楽の絵本
p.4～5 ■＜特集＞
西多摩を愛し、西多摩を撮り続けた
写真家の“隠された世界”
櫻井保秋回顧展
p.6 ■イベントガイド
芸術鑑賞／ギャラリー／講座・教室／
市民イベント！
p.7 ■6月～9月の
イベントカレンダー
p.8 ■ゆとろぎクラブ

アート in はむら展 IX
アート・フェスティバル

6/23㊋～7/5㊐　10:00～17:00（最終日は16:00まで）
ゆとろぎギャラリーほか（入場無料）

■ワークショップ

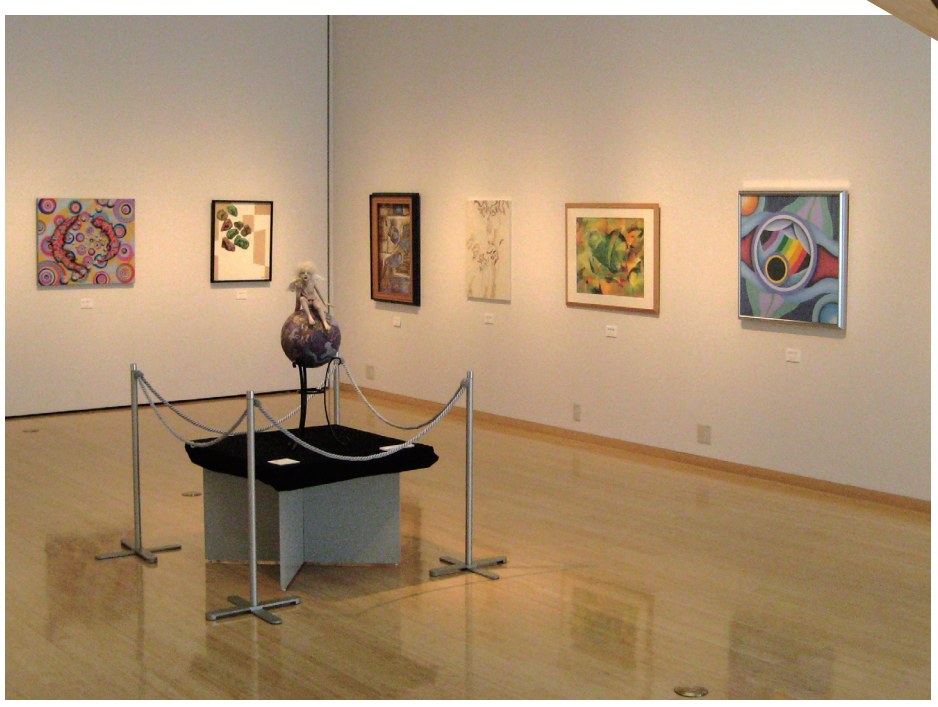
「親子で作ろう　光のオブジェ」
ー集まれ子ども！大人だって楽しいぞ！ー

ファイバークラフト紙の造形にLED三原色ライトを灯すと美しい光彩が…。
簡単に楽しくできる「私だけのランプ」を作りましょう！
問合せは「ゆとろぎ」まで

6/28㊐　10:00～12:00
創作室1（3階）
参加費300円
定員：20名（先着順）

■ギャラリートーク

6/28㊐　14:00～16:00
ゆとろぎギャラリーほか
参加無料



（掲載の写真は昨年度撮影したものです）

眼の下に甸沙郷の中心集落を見下ろす山の中腹からの眺めは、まさに“壮大”の一言である。赤土の山が視界いっぱいに稜線を広げ、山肌に幾筋もの棚田が山頂近くにまで重なり合い、まるで地図の等高線をそのまま大地に描いたかのようだ。（撮影・平田栄一）

新講座『世界の“今”を知る』
第２回＜写真展と講演会＞

中国雲南省の少数民族

…… 学校建設支援活動の現場から

新講座『世界の〝今〟を知る』が始まります。

３月14日（土）、本田弘之氏（杏林大学教授）を小ホールに招き、『日本の常識、世界の非常識―異文化を理解するために』と題して、その実質的な第１回が開催されました。この講座では、世界各地の〝奇妙な慣習〟をテーマにとりあげ、食事を中心に生活一般について私たちの生活と比較することで、国による違いを理解し、関心を深めることができました。

それに続く、第２回講座を８月６日（木）から９日（日）まで開催します。今回は『中国雲南省の少数民族』と題した写真展と講演会です。

雲南省は中国の南部にあって、ベトナム、ラオス、ミャンマーと国境を接し、世界遺産都市の麗江や少数民族の存在で日本でも知られるようになってきました。

チベットから連なるヒマラヤ山系の東端にあたり、標高６０００メートルの高山がある一方で、年間を通して温暖な気候に恵まれた農業地域です。

しかしながら、その多くの県や村が貧困地域に指定され、上下水道、学校、病院などの生活基盤の整備が遅れ、そこに暮らす家庭の多くは貧しい生活の中にあって、子どもたちの教育に未来を託しています。

今回、少数民族の子どもたちのために小学校の建設支援を行っている特定非営利活動法人「日本雲南聯誼（れんぎ）協会」の協力を得て、ゆとろぎ展示室において、少数民族の子どもたちが撮影した家族や友だち、家や村などの写真に解説を付けてパネル展示します。併せて、民族衣装や関連グッズも展示します。

８日には、同協会の初鹿野恵蘭（はじかのけいらん）理事長を講師に招いて、スライドを見ながら少数民族の生活や学校支援活動の実際についてお話をうかがい、「豊かさ」や「貧しさ」について、あらためて考えてみたいと思います。写真展・講演会ともに入場無料です。

誰でも世界に行けるようになりました。でも、世界はまだまだ知らないことばかり。『世界の〝今〟を知る』シリーズでは、世界各地で生活をした経験をもつ方を講師に招いて、観光旅行では知り得ない世界を紹介します。

【写真上】少数民族の子どもたちと交歓する初鹿野恵蘭さん
【写真中】教育環境は貧しくとも子どもたちは未来に大きな夢を描いている
【写真下】さまざまな民族の子どもたちが机を並べて学んでいる

■写真展
8月6日（木）～9日（日）
10：00～17：00（最終日 16：00 まで）

■講演会
8月8日（土）19：00～21：00
講師：初鹿野恵蘭（NPO法人・日本雲南聯誼協会理事長）さん

※写真展・講演会とも入場無料

羽村ゆかりの音楽家たち

8月2日（日）開場 15：00 ／開演 15：30
一般（前売り）1,000 円 ／ (当日) 1,500 円
高校生以下 500 円（全席指定）　ゆ ス マ に

はむらの風コンサート

岩崎由美恵（ソプラノ）

国立音楽大学声楽科卒業。同大学院声楽専攻オペラコース修了。第 11 回日仏声楽コンクール第 1 位及び竹村賞受賞。第 9 回世界オペラ歌唱コンクール「新しい声 2001」のアジア代表に選出、ドイツ本選出場。第 21 回国際ベルヴェデーレオペラ・オペレッタコンクール日本代表。盛岡市民賞 (聴衆賞) 受賞。第 15 回日本声楽コンクール第 3 位及び奥田良三賞受賞。二期会会員。二期会フランス歌曲研究会会員。羽村市在住

大舘光広（テノール）

第 3 回高校生国際芸術コンクールに入賞。柴田南雄 オペラ『忘れられた少年』に原マルチノ役で出演。国立音楽大学卒業後、二期会に所属。イタリアのミラノ音楽院留学。合唱に多く参加。現在、日本演奏連盟会員。合唱指導にあたる。羽村市在住

今年からシリーズ・コンサート「羽村ゆかりの音楽家たち」が始まります。羽村で育ち、羽村に住む音楽家を広く知っていただき、それぞれが得意とする歌唱や演奏を通じて、羽村の音楽文化をいっそう盛り上げようという企画です。

第 1 回の「はむらの風コンサート」は、岩崎由美恵さん（ソプラノ）、大舘光広さん（テノール）、大井哲也さん（バリトン）の 3 人のオペラ歌手と小田切洋子さん（ピアノ）が出演。2 部構成の第 1 部はそれぞれの得意楽曲を、第 2 部はオペラの名曲を歌います。真夏の午後のひとときをはむらのさわやかな風にのっておくつろぎください。未就学児童の入場はできません。一時保育有り（有料・要予約）。

大井哲也（バリトン）

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修士課程オペラ専攻修了。二期会オペラ研修所第 47 期マスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。同研修所プロフェッショナルコース第 7 期修了。東京バロック・ゾリステン合唱団、混声合唱団「海」、女声合唱団「ティアラ」常任指揮者。桐朋学園大学嘱託演奏員。桐朋学園大学芸術短期大学演奏助手。日本声楽家協会アカデミー会員、東京声楽教育センター講師。二期会会員。羽村市出身

小田切洋子（ピアノ）

フェリス女学院短期大学音楽科卒業。同専攻科修了。卒業後、名古屋音楽学校講師を務める。朝日新聞新人音楽コンクール入賞。読売新人演奏会、室内楽、声楽の伴奏等多数のコンサートに出演。福生市主催「名曲コンサート」に毎年出演。2005 年、2007 年、チャリティーコンサート「音楽の贈り物」に出演。ゆとろぎオープニングコンサート、羽村の第九の練習ピアニストを務め、現在、3 つの合唱団のピアニストを務める。羽村市在住

ゆとろぎで行う羽村市教育委員会主催のコンサートのチケットは下記で取り扱っています。

- ゆ　ゆとろぎチケットカウンター
  9：00 ～ 17：00（月曜日休館）
  ☎ 042-570-0707
- ス　羽村市スポーツセンター
  9：00 ～ 17：00（月曜日休館）
  ☎ 042-555-0033
- マ　マルフジ青梅・羽村・福生市内 10 店舗のサービスカウンター
- に　西多摩新聞社チケットサービス
  ☎フリーダイヤル 0120-61-3737

※各コンサートに関するお問合せまたは「一時保育」の申込み・お問合せは、ゆとろぎ（☎ 042-570-0707）へどうぞ。

親子のためのクラシックコンサート

音楽の絵本

昨年大好評の『0 才からのクラシック』に引き続き、今年も親子で楽しめるコンサートを開催します。動物たちが楽器を演奏し、小さな子どもも楽しめるコンサートです。

「音楽の絵本」とは、文学の入り口に絵本があるように、本格的なクラシック音楽における絵本のようなもので、音楽を知る糸口になります。ライオンやトラなどのズーラシアンブラスと弦ウサギが楽しくクラシック音楽を演奏して、おとぎの世界に招きます。授乳室、おむつ交換所もありますので、家族そろって気軽にお楽しみください。

7月4日（土）開場 10：30 ／開演 11：00
一般 1,500 円 ／高校生以下 800 円（全席指定）
ゆ ス マ に

フレッシュ名曲コンサート
2 大ピアノ協奏曲の夕べ

共催：東京文化会館（(財）東京都歴史文化財団）／協力：東京都オーケストラ事業協同組合

川田健太郎（ピアノ）

前山仁美（ピアノ）

梅田俊明（指揮）（撮影・三浦興一）

8月 23 日（日）開場 17：30 ／開演 18：00
一般（前売り）2,000 円 ／ (当日) 3,000 円
高校生以下 1,000 円（全席指定）　ゆ ス マ に

身近な地域でクラシック音楽に接し、新進音楽家を登用する『フレッシュ名曲コンサート』を羽村で初めて実施します。「都民の文化環境の整備・文化振興に関する普及啓発」を目的として東京文化会館（(財）東京都歴史文化財団）が主催している事業です。

今回は 2 人の気鋭ピアニストが梅田俊明氏指揮の日本フィルハーモニー交響楽団とともに、ベートーベンのピアノ協奏曲第 5 番「皇帝」、ラフマニノフのピアノ協奏曲第 2 番を演奏し、交響楽団がロッシーニの歌劇「セヴィリアの理髪師」序曲をお贈りします。将来の活躍が期待される若手音楽家の演奏を身近に楽しめる、絶好の機会です。お見逃しなく。未就学児童の入場はできません。一時保育有り（有料・要予約）。

櫻井保秋回顧展

西多摩を愛し、西多摩を撮り続けた写真家の〝隠された世界〟

2002（平成14）年、惜しまれつつ64歳で逝った写真家・櫻井保秋は、「玉川上水といえば羽村の櫻井保秋、櫻井保秋といえば玉川上水」と評されるほど玉川上水、西多摩をフィールドに活躍し、写真集『玉川上水』は代表的作品集として今なお高い評価を得ている。

ゆとろぎ協働市民の会展示部会は、このほど瑞枝夫人の協力を得て、大量の未発表作品を発掘した。それは、これまで知られてきた櫻井の世界とはまったく別な世界だった――若き日の指揮者・小澤征爾、テレビ創世期の人気番組『三匹の侍』の主演俳優・平幹二郎、長門勇、加藤剛をとらえた貴重なショットなど、〝ポートレート写真家〟櫻井保秋の知られざる鋭い感性が現代に蘇る。

8月26日（水）～9月6日（日）
午前10時～午後5時（最終日午後4時閉場）
ゆとろぎギャラリー（入場無料）

Gallery

西多摩を愛し、西多摩を撮り続けた写真家の“隠された世界”

櫻井保秋回顧展

羽村市民が写真家・櫻井保秋を思い出すとすれば、『広報はむら』の表紙だろう。動物公園の鳥たち、堰の桜、神輿の川入りなどなど、１９９２（平成４）年新春号から２０００（平成12）年４月１日号まで、羽村の四季折々の風景を写しとった写真が、広報紙の顔として市内各戸のポストに届いた。また、緑萌える玉川上水の風景、その足元に咲く野草の可憐な姿、西多摩各地の伝統の祭りをとらえた写真家としても広く知られている。

だが、櫻井保秋のフィールドが多摩の自然だけではなかったことは意外に知られていない。櫻井家には今も数々の芸能人、アーティストの人生を一瞬のポートレートに切り取った、マスメディアでの膨大な仕事が大切に保管されている。

局付きカメラマン

１９５８（昭和33）年、櫻井保秋は東京写真短期大学（現東京工芸大学）を卒業した。日本は高度成長の真っただ中にあった。民間のテレビ会社が次々と誕生し、テレビ局には放送用の動画を撮影するテレビカメラマン以外に、番組宣伝や資料写真を撮るためのスチールカメラマンが数多く活躍していた。櫻井のプロカメラマンとしての人生は、フジテレビ創世期（文化放送時代を含む）の局付き写真部員として始まった。

国内外の有名ミュージシャン、中高年には懐かしい、フジテレビの人気番組『三匹の侍』の平幹二郎、情熱的にタクトを振るデビュー当時の小澤征爾といった豪華な顔ぶれを被写体に、日々ファインダーを通して最高の一瞬をとらえるのが彼の仕事だった。

１９７２（昭和47）年に独立。『婦人公論』『少年サンデー（表紙）』や『旅に出ようよ』『abroad』などの旅行雑誌へと仕事の領域は広がった。中でも、サラリーマン層に爆発的に売れたタブロイド紙『夕刊フジ』の仕事は、櫻井が入院する直前まで続いた。週に一度掲載される「今週の顔」は、そのときどきの旬の芸能人の原寸大ポートレートが看板の人気コラムだった。櫻井は３年にわたり、毎週一人、実に１５０人を撮り続けた。誰もがどこかで櫻井の写真を目にしているはずだ。

「第二のふるさと」との出会い

１９７８（昭和53）年、櫻井は羽村に転居した。その５年後の５月、愛用のカメラを提げ、夫婦で出かけた奥多摩の駅前で、郷土芸能の三匹獅子舞に出会った。櫻井が育った静岡地方に獅子が３匹そろって舞う祭りというのは記憶になく、その強烈な印象と元来の祭り好きとが重なって虜になってしまう。尋ねてみると、西多摩には同様の獅子舞が各地にあるという。

それからというもの、都心での仕事をこなしながら、集落ごとの祭りを追いかける日々が始まった。神事でもある祭りの空気を乱さぬよう、邪魔をしないよう、よそ者として気を配りながら粘り強く通い詰め、次第に心を開いてくれる古老たちから土地の風習、祭りの由来を聞き書きしては写真を撮った。それは20年にわたる撮影の記録となり、西多摩の貴重な伝統文化の資料となる写真集として残った。

伝統の祭りを追いながら目にする多摩の自然の美しさも、写真家・櫻井の琴線を振るわせた。もう一つの撮影紀行〈玉川上水〉が生まれた。

櫻井は「眼前の光景はシャッターを押した瞬間、過去になり、記録となる」としばしば語っている。玉川上水を撮り続けたのも、江戸時代の歴史的遺産であり、今もなお現役として生命の水を運び続ける玉川上水を、その流域に住むカメラマンとして記録に残さなければいけない、との強い思いからだった。生活の糧として撮る写真とは別の、写真家・櫻井のライフワークとしての仕事だった。

二人三脚

カメラバッグに三脚、レフ板、パラソルなど、大荷物の撮影機材を携えて玉川上水を歩く姿に「ご夫婦で撮影行とは、よいご趣味で」と声をかける人もいたが、プロとして撮る写真だけに、アシスタント役の夫人にとっては苦労も多かったという。

「ワンショット撮るのにも、構図を決めて、足場を固めて、三脚を据えて、光を調節して……。そんなに次々と撮れるものじゃありません。場所を移動するたびに、残された荷物をみんな集めてついて行くんですけど、なぜだか私の持ち物がどんどん増えるの」

レンズキャップを流れに落として、次の橋まで走ったこともあった。

「そんなときに、あら、こんな可愛い花が咲いてる、なんてね」

季節ごとに花をつける野草の写真は、焼き付けたのち、図鑑を頼りに苦労しながら名前を調べ、『玉川上水の野草たち』という愛すべき写真集に実を結んだ。

２００２（平成14）年、櫻井は次の作品集の構想半ばで病に倒れ、64歳で逝った。瑞枝夫人にとって、櫻井とともにくまなく歩いた玉川上水は、自宅の庭のように濃密な思い出の場所となった。

「櫻井が亡くなって数年は、一人でそこに行く気持ちになれなかった」

と瑞枝夫人。最近ようやく、

「今頃は、あそこに、あの花が咲いているはず。会いに行こう」

と思えるようになったという。櫻井が病床で編集していた作品集の原稿ファイルを今も大切に保管している。

見覚えのない訪問者

櫻井が亡くなってだいぶ経ったある日、「お線香をあげさせてください」と一人の男性が訪ねてきた。瑞枝夫人は差し出された名刺に心当たりはなかった。

「『お祭での知り合い？　どこの方かしら？』って、頭の中で記憶をフル回転させながらお参りしていただいて、帰り際、飾ってあった猫ダルマに目を留めた彼が『これ、俺んちのだ！』と。ダルマ市で撮らせてもらったダルマ屋さんだったの。私は写真でしか会ってないからわからなかった」

櫻井は大のジョーク好き、ダジャレ好きで、誰にでも気さくに話しかけた、と瑞枝夫人は言う。櫻井が残した数々のポートレートを見ていると、華々しい世界に生きる芸能人がわずかにのぞかせた素の顔にも、奥多摩に暮らす老人の構えのない自然な姿にも、櫻井の温かな人柄が伝わってくるようだ。

（取材・江久保千英）

■櫻井保秋のプロフィール
1937 年 静岡県静岡市生まれ
1958 年 東京写真短期大学（現：東京工芸大学）卒業。テレビ、雑誌などマスコミの写真撮影に従事
1983 年「西多摩に伝わる郷土芸能」の撮影を開始
1989 年 個展「東京西多摩祭土記」を開催
1992 年 個展「獅子の風」を開催
1995 年 個展「玉川上水」を開催
1997 年 朝日新聞「ひと・みず・みどり」に連載
1999 年 羽村市芸術家作品展「玉川上水」を開催
2002 年 9 月 10 日、次の写真集を準備しながら…
日本写真家協会会員

■櫻井保秋の業績
『獅子の風（東京西多摩・三匹獅子舞）』（自費出版、1991 年）
『玉川上水　水と緑と花の径』（自費出版、1995 年）
『玉川上水散策』（共著）（羽村市教育委員会発行、1995 年）
『御嶽神社の祭り』（共著）（百水社、1996 年）
『青梅住吉祭礼』（共著）（百水社、1997 年）
『玉川上水の野草たち』（自費出版、1997 年）

このコーナーでは、ゆとろぎで行う羽村市教育委員会主催の事業や羽村市文化協会、社会教育関係団体などが主催するイベントの情報をお届けします。羽村市教育委員会が主催するコンサートのチケットは下記で取り扱っています。

□ゆとろぎチケットカウンター（月曜日休館）
9：00～17：00　☎042-570-0707
□羽村市スポーツセンター（月曜日休館）
9：00～17：00　☎042-555-0033
□マルフジ青梅・羽村・福生市内10店舗のサービスカウンター
□西多摩新聞社チケットサービス
☎フリーダイヤル 0120-61-3737

※コンサートあるいは「一時保育」の申込み・問合せは、ゆとろぎへどうぞ。市民イベントについては、各主催者の問合せ先へお願いします。

芸術鑑賞

■劇団わらび座『火の鳥』
6／20（土）午後3時開演。ゆとろぎ大ホール（全席指定）。一般4000円、高校生以下2000円。未就学児の入場はできません。一時保育あり（有料・要予約）。

■第21・5回ゆとろぎ寄席（〜五会）
6／24（水）【昼席】午後3時開演【夜席】午後6時30分開演。ゆとろぎ小ホール。出演・柳家右太楼。入場券は昼・夜別で（前売り）500円、（当日）800円、昼夜セットで800円。
※当日券は席に余裕がある場合のみ販売します。第22回7月11日（土）、第23回9月19日（土）を予定。

（AD・森田文明）

フォルメンティさんは、昨年、ウィーン・フーゴ・ヴォルフ三重奏団の一員としてゆとろぎ大ホールの聴衆を魅了。日本各地の公演でもマリノ・ファンが急騰した本格派ピアニストです。ヨーロッパでその実力を認められたピアノソロを羽村で楽しめる絶好のチャンス。お聴き逃しなく。チケット好評発売中。

ギャラリー

■ゆとろぎ美術館第8期
7／20（月・祝）～9／24（木）。月曜日休館。ゆとろぎ2階・地階。ゆとろぎを美術館に見立てて、気軽にアートを楽しんでいただく「ゆとろぎ美術館」は8回目を迎えます。今回は墨と和紙が織りなすアート「書」です。羽村市在住の書家、新村彩翠・浜中茂子・細渕翠苑・木住野栄・田村好・松戸清玲・白川タイ子・中村青秀・高山観舟の各氏の作品を展示します。モノクロームのアートの世界でどんな作品と出会えるのか、期待が膨らみます。「ゆとろぎ美術館」は、12月、3月にそれぞれ第9期、第10期を開催予定。

講座・教室

ゆとろぎで行う羽村市教育委員会主催の講座・教室をご紹介します。本誌の発行時期の関係から、講座によっては既に募集を締め切った場合もありますので、詳しくはゆとろぎにご確認ください。募集終了の際はご容赦ください。

■子育て中のお母さんのための講座No.1「図書館ボランティアのハーブ教室」
6／24（水）、午前9時30分～11時30分。ゆとろぎ創作室1。先着25名。参加費1人500円（材料費含む）。子育て中の母親を対象にハーブの種類とその効能を知り、栽培の仕方を学びます。子育ての手を休めてゆったりとした時間を過ごしましょう。一時保育有り（有料・要予約）。講師・浜中久美子さん（ボランティアグループハーブはむら）。

■子育て中のお母さんのための講座No.2「ママも変身！ゆかた美人」
7／3・10（金）、午前9時30分～12時。ゆとろぎ3階和室。募集定員15名。受講料1人1000円。基本的なゆかたの着付けを学び、子どもと一緒に楽しい夏を過ごしましょう。ゆかた、下着（着物用ワンピースまたは肌じゅばんと裾よけ）、半巾の帯、腰ひも2～3本、襟芯、帯板、だて締め、履物、敷物を各自ご用意ください。講師：富岡輝江さん（ハクビ京都着物学院教授会所属）。

■かしこいインターネット活用講座
6／9・23・7／7・21（全4回火曜日）、午前10時～12時。講座室2。募集定員20名（応募多数の場合は抽選）。受講料1人2000円（全4回分）。日々の生活の中で、インターネットを安全にかつ簡単に活用する術を丸ごとご紹介。参加者自身のライフスタイルへの応用も取り入れてワークショップスタイルで進行します。無線LAN付ノートパソコンなら持込み可能。講師・佐藤亜夫さん（多摩ITネット）。

市民の会会員募集

ゆとろぎ市民の会では、新会員を募集しています。市民の会は教育委員会がゆとろぎで主催するコンサートや演劇・アート展・学習や趣味の講座などを企画運営するボランティアです。あなたが見たいこと、したいこと、知りたいこと、聴きたいことを実現しませんか。興味のある方、詳しく知りたい方はゆとろぎまでご連絡ください。また、市民のみなさんからの事業のご提案も受け付けています。提案内容がわかる文書をお送りいただくか、ゆとろぎ市民の会事務局にご相談ください。

生涯学習センターゆとろぎ
☎042-570-0707
〒205-0003
羽村市緑ヶ丘1－11－5

市民イベント

市民団体・グループが主催するイベントをご紹介します。イベントの内容や一時保育については各問合せ先にご確認ください。

□羽村市美術・工芸代表者展　第2期　書・篆刻・水墨画・日本画・押し花・陶芸・日本刺繍・いけ花の部
6／3（水）～7（日）、午前10時開場～午後5時閉場。ゆとろぎ展示室（入場無料）。羽村市文化協会設立5周年記念事業として、日ごろ活躍している団体、サークルの指導者及び代表者の作品を展示します。（問合せ）渡部☎042-579-1385

□水彩画サークル「萌」第9回作品展
6／11（木）～14（日）、午前10時開場～午後5時閉場（初日は午後1時開場。最終日は午後3時閉場）。ゆとろぎ展示室（入場無料）。結成10周年を迎える今年は、楽しく和やかな会風をモットーに活動してきた成果を発表します。（問合せ）小澤☎042-555-9048

□ゆとろぎサロンコンサート
6／13（土）、午後12時30分～1時。ゆとろぎロビー（無料）。出演・三味線 弥尾地会。羽村市文化協会主催。（問合せ）市野☎090-5510-0191

□市民プロジェクト21 交流ひろば第1回「ボランティアセンターの役割を知ろう」
7／4（土）、午後2時から4時。コミュニティーセンター2階研修室。講師・加藤雅人さん（市民活動・ボランティアセンターはむら）。参加費無料。（問合せ）堀☎090-2257-0933

□羽村フィルハーモニー管弦楽団 第18回定期演奏会
7／12（日）、午後2時開演。ゆとろぎ大ホール（入場無料）。指揮・久世武志。演奏曲目／メンデスルゾーン序曲「ルイ・ブラス」／モーツァルト交響曲第35番「ハフナー」／ドボルザーク交響曲第9番「新世界より」。（問合せ）棚田☎042-536-4282

□第35回水彩画グループ展
7／15（水）～19（日）、午前10時開場～午後6時閉場（最終日は午後4時閉場）。ゆとろぎ展示室（入場無料）。風景画、静物画、ハガキ絵など約40点を展示します。（問合せ）市野☎042-554-6287

□チャリティコンサート音楽の贈りもの第3回　ピアノ・声楽・ハープ
7／26（日）、午後1時30分開演。ゆとろぎ大ホール。一般1000円、小学生～中学生500円。音楽の贈りもの主催。私たちの身近なところで、指導・伴奏者として地道な音楽活動を続けている人たちにスポットをあてるコンサートです。未就学児は入場できません。一時保育あり（有料・要予約）。チケットはときわ堂五ノ神本店・栄町店で販売。（問合せ）細井☎090-6300-6786

団体・サークル情報の扱い

「ゆとろぎ通信」では、今年度から羽村市内で活動する市民団体・サークルを支援する一助として、みなさんからの情報を掲載することになりました。教育委員会が定めるルールに基づき、市民活動の一環として行われるイベントを本誌面で紹介します。

紹介記事の掲載を希望する団体・サークルまたは個人は、左記の要領に従って、原稿をゆとろぎへご持参ください。なお、本誌の発行は、毎年6月・9月・12月・3月の各1日です。各発行日の1ヶ月前を受付締切とさせていただきます。

〈掲載要領〉
①イベント名
②開催日時
③開催場所
④入場料などの有無
⑤イベントの簡単な内容
⑥その他必要事項
⑦問合せ先（氏名・電話番号）

〈原稿受付〉
生涯学習センターゆとろぎ
☎042-570-0707
〒205-0003
羽村市緑ヶ丘1－11－5

6月～9月のイベントガイド

※本欄に記載の事業は計画段階のものも含まれています。諸般の都合により、開催日を変更または取りやめることもあります。詳しくは「ゆとろぎイベントガイド」（毎月 15 日発行）あるいは「広報はむら」などをご参照ください。
※ゆとろぎは祝日を除く月曜日が休館日です。

	6月	7月	8月	9月
芸術鑑賞	●6/20 劇団わらび座公演「火の鳥」		●8/2 はむらの風コンサート ー羽村ゆかりの音楽家たちー	
	◆6/23 マリノ・フォルメンティ ピアノリサイタル			◆8/23 フレッシュ名曲コンサート 2大ピアノ協奏曲の夕べ ◆9/26 国立音楽大学ブラスバンド コンサート
		●7/4 音楽の絵本		
	●6/24 ゆとろぎ寄席（丶五会）	●7/11 ゆとろぎ寄席		●9/19 ゆとろぎ寄席
	●6/21 子ども映画会	●7/12 子ども映画会	●8/9 子ども映画会	●9/13 子ども映画会
	◎6/7 第 24 回山藤流山藤会	○7/12 羽村フィルハーモニー管弦楽団 第 18 回定期演奏会		
	◎6/13　第 13 回 ゆとろぎサロンコンサート（三味線弥尾地会）	○7/26 チャリティーコンサート 音楽の贈りもの第 3 回		◎8/30　第 14 回 ゆとろぎサロンコンサート（ウクレレ）
	◎6/14 松乃扇流第 34 回民謡 創作新舞踊まつり			
	◎6/28 第 11 回 東流をどりの会			
展示	●6/23 ～ 7/5 アート in はむら展IX			●8/26 ～ 9/6 写真展「櫻井保秋回顧展」
	◎6/3 ～ 7 羽村市美術・工芸代表者展第 2 期（書・篆刻・水墨画・日本画・押し花・陶芸・日本刺繍・いけ花の部）	←――――――●7/20 ～ 9/24　ゆとろぎ美術館（第 8 期）――――――→		
	○6/11 ～ 14 水彩画サークル「萌」第 9 回作品展		●8/6 ～ 9 世界の今を知る（写真展） ー中国雲南省の少数民族ー	
		○7/15 ～ 19 第 35 回水彩画グループ展		
講座・教室	●6/24 子育て中のお母さんのための講座 No.1 「図書館ボランティアのハーブ教室」	●7/3・10 子育て中のお母さんのための講座 No.2 「ママも変身！ゆかた美人」	●8/8 世界の今を知る（講演会） ー中国雲南省の少数民族ー	
	●6/9・23・7/7・21 かしこいインターネット活用講座			
	○6/5・12・19・26 パソコン講座（Excel 応用）	○7/3・10・17・24 パソコン講座（Word 入門）	○8/7・14・21・28 パソコン講座（Word 初級）	○9/4・11・18・25 パソコン講座（Word 中級）
その他				

（●＝羽村市教育委員会主催／◎＝羽村市文化協会主催・後援／◆＝羽村市教育委員会共催・市民の会協力／○＝社会教育関係団体主催）

ゆとろぎ通信
2009年6月1日発行（通巻13号）
Vol.5

「ゆとろぎクラブ」のコーナーはゆとろぎと市民のみなさんをつなぐ紙面スペースです。ゆとろぎの裏話やちょっとした話題をお伝えします。市民のみなさんからの投稿あるいは情報の提供も歓迎です。気軽にご応募ください。

ゆとろぎクラブ

お互いの“思いやり”で快適なゆとろぎを

……ゆとろぎのマナー向上キャンペーン……

ゆとろぎのマナー

ゆとろぎは市民のみなさんのための生涯学習施設です。子どもからお年寄りまで、生涯を通じて学び合い、集い合うことができる施設を目指しています。公共のマナーやエチケットを知らない人がいたら優しく教えてあげる、そういう人たちに支えられる施設でありたいと思います。

そのためには、ゆとろぎを今使っている人や次に使う人のために「思いやり」を大切にしたいですね。そして、ゆとろぎを居場所にしている子どもたちを見守り、ゆとろぎのマナー、エチケットを伝えていただければ、と思います。

■ゆとろぎ5つのマナー

①使った施設や備品は元の位置に。
②施設や備品が汚れていたり、壊れていたら受付けに連絡を。
③自転車は所定の場所に、整列駐輪を。
④トイレは上手に清潔に。
⑤貴重品は肌身離さずに。

施設内で走ったり、大きな声を出すことは、マナー以前の問題です。誰もが、ゆとろぎを安全快適に、末永く利用していくために、利用者一人一人の理解と協力が大きな力となります。今日からみんなで始めましょう。

ギャラリーのマナー

ゆとろぎ1階の展示室（ギャラリー）は、年間に数千人のアートファンで賑わう、ゆとろぎの人気スペースです。ゆとろぎ協働事業運営市民の会が企画運営するイベントだけでも年平均6、7件、この他に市内の文化団体や一般市民の利用が年々増加し、年間を通してイベントが行われています。

展示会場は出品作家と鑑賞者がアートを通して対話する場所です。鑑賞する立場から作家に敬意を表し、他の鑑賞者の邪魔をしないように、「静かに、ゆっくり」と鑑賞したいものです。ゆとろぎでは、アート鑑賞に際しての基本的なマナーを次のように考えています。

①作品1点1点に作家の魂が込められています。許可のある作品以外は絶対に手を触れない。
②日本画・漆画・油絵などは湿気が大の苦手。作品に直接息がかからない距離を守る。
③ギャラリー内や展示作品の近くで大声で話したり、走り回ったりしない。
④混雑しているときは、まわりの人と譲り合う。
⑤主催者の許可がある場合を除き、原則として写真撮影は禁止です。携帯電話による撮影、通話も控える。
⑥児童の保護者は鑑賞のマナーを指導する。

■マナー

①携帯の着信音・時計のアラームなど「音」の出るものは、開演前に電源を切るかマナーモードに。
②足音、プログラムやチラシの音、鈴の付いたストラップなど「音」をたてないようにしましょう。
③私語は演奏者や周りの人にとっては雑音です。やめましょう。
④傘は傘立てに。ホールに持ち込む場合は必ず傘袋に入れて、座席の下にねかせておきましょう。
⑤自分の席や前の席の背もたれに、手荷物やコートをかけたり、座席を蹴ったりするのはやめましょう。
⑥2階席の最前列を利用する場合、
(1)手すりに物を置かない。万一、1階席に落としては危険です。
(2)お子様が身を乗り出さないように注意してください。
⑦音楽公演の場合、「演奏中は入場しない」が大原則です。指示があるまでロビーで待ちましょう。
⑧出演者への花束もセロファンの音がでます。終演まで受付に預けましょう。
⑨遅れて入場するときは、自分で扉を開けずにドア係に任せましょう。ドア係がいない時は、ホール内に外の光が入らないように静かに開け、静かに閉めて入場しましょう。

ゆとろぎホールでは、お客様が気持ちよく鑑賞できるように、レセプショニストがお手伝いをしています。ホールでのマナーについて不明なことや聞いてみたいことがありましたら、気軽にたずねてください。

マナーの基本は「人を思いやる気持ち」です。ゆとろぎの利用を通して、マナーやエチケットを身につけるのも生涯学習活動の一つではないでしょうか。「ゆとろぎの利用者一人一人が周りに配慮のできる素敵な市民になれたら……」と思うのですが、みなさんはいかがでしょうか。

ホールのマナー

ゆとろぎの開館当初、「なぜ立ち見ができないのか?」「なぜ演奏中に入れないの?」などの声を耳にしましたが、徐々に禁止事項や鑑賞マナーが浸透してきたようです。それでも、素晴らしい演奏の最中に携帯電話が鳴り響いて、せっかくの演奏が台無しになってしまうことがしばしばあります。演奏者とお客様が同じ空間で同じ感動を共有できるように、ほんの少しの配慮を心がけたいものです。「舞台も素晴らしかったし、観客のマナーとろぎホールをめざして!

そこで、ゆとろぎホールでの鑑賞マナーを少しご紹介します。

■禁止事項（法律で禁止されているものもあります）①立ち見②飲食③喫煙④録音・録画・撮影（許可がある場合でも通路に三脚・機材・荷物などを置くことは禁止です）

コンサートピアノの「弾き込み」ボランティアを募集しています

ゆとろぎには、大ホールにスタンウェイ D-274、小ホールにヤマハ CF Ⅲ－S のコンサートピアノが2台用意されています。これまでに多くのピアニスト、演奏家がすばらしい音色を響かせてくれましたが、ピアノは弾き込むほどに音色がよくなるといわれています。

そこで、この2台のピアノの「弾き込み」のボランティアを募集します。募集の条件は右記の通りです。

1）ピアノ演奏上級者
2）指定する日時に来訪可能な方
3）交通費を含めすべて無償

弾き込みの場所は、ステージ脇もしくはピアノ庫です。誰でもオーケーというわけにはいきませんが、スタンウェイを奏でられるまたとない機会です。われこそはと思う方は奮ってご応募ください。応募多数の場合は調整させていただきます。

＜問合せ・申込み先＞
ゆとろぎ☎ 042-570-0707

子育てママの読書たいむを「さくらんぼ」がサポート

子育て中の保護者が図書館でゆっくりとすごしている間、ゆとろぎ保育室の「さくらんぼ」がお子さんをお預かりします。保護者が図書館以外の場所に行くことはできません。

●利用できる日時
毎月第2水曜日と第4土曜日の午前10時～正午まで。館内整理や行事の都合で変更になる月もあります。

●利用できる方
羽村市図書館を利用する保護者

●児童の年齢
1歳半～就学前まで

●申し込み
利用日の7日前の午後5時までに利用料を添えてゆとろぎ窓口にお申し込みください。

●利用料（お子様1人につき）
水曜日は500円、土曜日は700円。いずれもおやつ代を含みます。

●定員　先着15名

詳細はゆとろぎへお問合せください。

【担当者のひとり言】

♧「利己的でない好意的な行いが、最も高い最も美しい利子をもたらす」はゲーテの言葉。「ボランティアとは?」と考え続ける日々。公私にわたるマイブームです。（えくぼ）

♠今年もまたアートﾆﾖはむら展開催準備の季節。1年ぶりにお会いするアーティストの皆様お久しぶり！1年経つのは早いですね。（関沢）

♥GW明け、休みを取ったはずなのに、気温の上昇についていけず身体のだるさを感じてしまう。夏の訪れを、子供のように素直に喜べなくなりました。（M・H）

△雲南省南部の貧困僻地で聞いた話。子どもたちが教育を受けるために都会へ行けば、将来は過疎化の不安もある。それでも、学校に行かせたいと。考えさせられる一言だった。（ヒラタ）

■芸術鑑賞部会は5月～8月にかけて公演が6本あり、その準備で4月、5月は毎日大忙し。どれもお勧めです。皆様のご来場をお待ちしています。（平原）

♤「ゆとろぎが　輝き眩し　五月晴れ」ゆとろぎも4年目に入り、市民への存在感も浸透して来た。私もいつまでも輝いていたいものです。（ふくさ）

♣隣市の市民グループ開発の「危機管理セミナー」を導入検討中にインフルエンザパンデミック禍が勃発。矢継ぎ早に地域を越えた人間の知恵が試される時代にこそ〝生涯学習〟が活きる。（藤原）

◇お父さん、地域デビューしてみませんか。ゆとろぎで何かを見つけてみませんか。（古澤）

♡年齢を重ねても、自分らしさを失わずに輝いて生きる。そうありたいものです。（堀）

▼さだまさし曰く、「自分の人生の主役はいつまでも自分」ですが、社会という舞台の主役は変わるもの。それにしても森光子さん、2千回とは…。（村山）

◇「小学校4年生」は低学年から高学年に入ります。ゆとろぎも4年生。「より高い志」を求めましょう。（山本）

【編集室から】

連載「私の生涯学習」は都合により休載しました。9月発行号にご期待ください。

発行■羽村市教育委員会
企画■羽村市生涯学習センターゆとろぎ
編集■ゆとろぎ協働事業運営市民の会
〒205-0003
羽村市緑ヶ丘1-11-5
☎042（570）0707
FAX042（570）6422
http://www.city.hamura.tokyo.jp

編集■江久保千英・関沢和代・長尾晃・日下田まや・平田栄一・平原克巳・福佐健二・藤原忠・古澤義隆・堀茂子・村山利夫・山本豊
羽村市生涯学習センターゆとろぎ
写真■平田栄一・村山利夫

印刷■（株）ビズステーション
〒359-0011
埼玉県所沢市南永井480
☎04（2951）2255

無断転載をお断りします。
Copyright ©2009 by YUTOROGI
All rights reserved.